

第21回 奈良県保健研究センター及び奈良県景観・環境総合センター 研究発表会 要旨

①奈良県内に流通する農産物中の残留農薬調査

-2013年度から2022年度の検出推移について-

保健研究センター 食品担当 荒堀 康史

2006年に食品衛生法が改正され、残留農薬等のポジティブリスト制度が施行された。奈良県でも本制度に対応するため、残留農薬の検査結果を集計し、県内流通農産物について残留農薬の実態把握に努めてきた。今回、2013年度から2022年度までの10年間の調査結果について、年度ごとの農薬の検出率と検出項目について解析したところ、いくつかの傾向が見られたので報告する。

②奈良県における腸管出血性大腸菌感染症の発生動向について

保健研究センター 細菌担当 佐伯 美由紀

腸管出血性大腸菌（EHEC）について、当センターでは、食中毒および感染症疑い時に検査を実施すると共に、感染源の究明や感染拡大防止対策の一助とすることを目的に、県内の患者等から検出されたEHEC株を収集し分子疫学的解析を行っている。今回、県内のEHEC感染症の発生状況および患者等由来株について実施した分子疫学的解析の結果をまとめたので報告する。

③県内大気中におけるホルムアルデヒド及びアセトアルデヒド濃度の経年変化

景観・環境総合センター 大気係 久保 友佳子

ホルムアルデヒド（FA）及びアセトアルデヒド（AA）は有害大気汚染物質として環境実態の把握が重要視される物質である。FA及びAAは固定発生源や移動体から一次的に排出される他、大気中での光化学反応による二次生成の寄与が環境濃度の変化に大きく影響している。奈良県内大気中のFA及びAAについて、一次排出及び二次生成の状況を明らかにするため、2008～2022年度のモニタリングデータの解析を行ったので、その概要を報告する。

④大和川流域におけるマイクロプラスチックの環境実態調査

景観・環境総合センター 水質係 平山 可奈子

マイクロプラスチック(MPs)の多くは、環境中に放出されたプラスチックごみが紫外線などの影響によって細分化されることで発生する。MPsは、水生生物が餌として誤食することにより物理的に体組織を傷つけることや、吸着した汚染物質を生体内へ移行させるといった生態影響が懸念されている。そこで本研究では、奈良県内河川において2年間MPsの環境実態調査を行い、その濃度分布や季節変動といった貴重な知見が得られたので報告する。